

会議等名	平成 27 年度 第 1 回 海老名市公共施設再編計画策定委員会
日 時	平成 27 年 4 月 30 日(木) 13 : 30～16 : 30
場 所	海老名市役所 4F 401 会議室
出 席 者	委 員：藤田委員長、加藤（仁）委員、牛村委員、加藤（昌）委員、河野委員、佐々木委員、城向委員、山本委員 事務局：財務理事 清水 昭 財務部長 秦 恭一 財務部次長 鴨志田 政治 企画財政課長 伊藤 修 企画財政課財政係長 一杉 幹也 企画財政課政策経営係長事務代理 石田 恵美 企画財政課政策経営係主任主事 久保寺 規雄 企画財政課政策経営係主事 吉岡 大徳 傍聴者：3 名
概 要：	1 委嘱式 2 開 会 3 委員長・委員長職務代理者の選出 ・委員長は、藤田由紀子委員を選出。 ・職務代理者は、加藤仁美委員を選出。 4 議 題 （１）これまでの取組みと公共施設再編計画策定委員会について （２）公共施設総合管理計画の策定要請について 資料に基づき、事務局から（１）、（２）の議題について説明。 ≪質疑・意見等≫ （委員）この委員会のスケジュールは 2 年間だが、何をどのような形で作り上げるのかということが見えていないため、ご説明いただきたい。 →議題（３）で公共施設白書の説明をするが、この白書の中では、海老名市が今後、今ある資産を同じように維持した場合、多額の財源不足が生じることが明らかとなっている。また、白書の中で実施している将来の人口推計の結果から、今後海老名市においても人口減少社会を迎えることがわかっている中で、今ある資産をどのようにして将来世代に引き継いでいけるのか、どうしても財源が足りない場合に、どのような形で財源不足を解消していくのかなどの問題の解決に向けた様々なご提言等をいただきたい。場合によっては施設と施設の統廃合や、人口減少が進む中でニーズの少なくなる施設について廃止するなどの方法も選択肢として排除せず、様々なご意見をいただきながら、この再編計画をつくっていきたいと考えている。なお、白書については 65 年間という非常に長い期間のデータブックとなっているが、今回策定する公共施設再編計画においては、そこまで長期の計画をつくることは難しいと考えており、どれくらいの期間の計画を策定するかなどについても検討していきたいと考えている。 （委員）この白書は文句をつけられないくらいよくできていると思う。これを見て、私たちは何を議論するのか。答申としてどのようにまとめていけばよいのかイメージが見えない。 （委員）事務局の中では、もう最終アウトプットのイメージはあるのか。

→最終アウトプットのイメージはまだない。どれくらいの期間で再編計画をつくるのかという策定の方針から、どのように今ある資産を持続させていくのかなどの問題解決に向けた提案までご議論いただきたいと考えている。

(委員) 個別的な施設についても特に計画はないのか。あるいは、個別的な計画がある中で、全体の整合性をとるような総合的な計画がないということなのか。

→それぞれの公共施設の個別的な計画については、建築年度からある程度の期間を経過した後に、大規模改修を行って、建てかえるということになっている。しかし、それらの計画の策定時点では人口減少は想定していなかった。人口減少社会の到来が近づいている中で、改めて計画を策定する必要が出てきたということである。

(委員) つまり、総合的な計画の土台をここでつくるということか。

→そのとおりである。これまでの計画は、行政がたたき台をつくっていくことが多かった。しかし近年は、ある程度やわらかい段階で、このように策定委員会としてみなさまに参加していただくパターンが多い。公共施設白書には課題などは示されている。まずは、みなさまに行政の持っている情報や課題、時代背景について共通認識を持っていただき、次回から先進事例等も見ながら議論していきたいと考えている。最終アウトプットのイメージは大変恐縮だが、まだ事務局のほうも現在検討しているところである。

(委員) 公共施設白書が現状認識の出発点となっている。この出発点のところから、われわれが関わっているということか。

(委員) この神奈川新聞だが、公共施設の問題は特段深刻ではないというコメントがあるが、このコメントの意図は何か。

→神奈川県全体の状況等も調べ他市と比較すると、海老名市は、市民一人あたり1.82㎡となっており、建物自体は多くないということである。市の面積あたりで見ても、そこまで多くなく、市が過剰に公共施設を作っているわけではないということである。

(委員) 公共白書については、後ほどご説明があるかと思うので、その際に、またご質問いただければと考えている。

(3) 公共施設白書について

資料に基づき、事務局から説明。

《質疑・意見等》

(委員) 聞き漏らしかもしれないが、投資限度額の11億円はどこから出したのか。

→白書の4-7ページを見ていただきたい。平成20～25年度の6ヵ年における新規施設整備およびインフラ施設にかかる事業費を除く普通建設事業費の平均値から投資限度額として設定している。

(委員) 過年度の補修実績を年あたりに直したということか。

→普通建設事業費の中で、新たにつくるものを除いて、改修などにあてている経費の平均を投資限度額としてこの白書上では設定している。

(委員) 65年というスパンの中で、たかだか6年間という短い期間で算出された額を投資限度額として算出するのは、統計的にあまり根拠がないように思うのだが。たまたま少なかった、あるいは多かった6年間などということにならないか。

→平成20～25年度の6年間の平均額を投資限度額として基準にして今後65年間の推計を行っているわけだが、さらに遡ると、施設の経過年数も少なくなるため、投資限度額が低くなる傾向となる。そのため、出来るだけ直近で、今現在どれく

らい改修を行っているかということを基本に考えている。

(委員) おおむねで設定したということか。

(委員) これが一つの基準となり、それと比べて、どれだけ足りないかということを議論するわけか。

→そのとおりである。

(委員) 今後の更新のピークはいつ来るのか。

→4-20 ページを見てほしい。中断に棒グラフがあると思うが、投資限度額としては赤いラインで 20 の下くらいにあると思う。また、将来費用の平均が青のラインで 37,8 のところにあると思う。このグラフが今後の公共施設にかかる将来費用であり、最初のピークとしては平成 32 年前後が平均を上回る年となる。平成 32 年前後に見ると、市民利用施設の大規模改修分が最も大きいウェイトを占める。その後は、平成 57～62 年くらいにまた更新のピークを迎えるということが、この白書で明らかとなっている。

(委員) この白書の投資限度額は、過去から見れば高い額となっているが、将来の方がもっと高い費用となる見込みのため、現在を費用額ベースに考えて、現在の規模に抑えていきたいという理解でよいのか。

→そのとおりである。

(委員) このまとめ 3 ページの人口動向のうち、平成 55 年までで 6 クラス減るとなっているが、小中学校合わせての数字か。

→1 歳刻みで計算しており、1 学年で 6 クラス減と考えられている。現在は 1 学年 1,200 人にいるが、推計では今後 200 人減るので、クラス単位 (35 人クラス) で考えると、6 クラス相当分くらいの子供が減るという意味である。

(委員) 課題のところにある「数量の大きい学校の適正化」とは具体的には何か。教室の数という意味か、面積か。

→公共施設全体の中で 50%を占めているため、数量の大きいという言葉がついている。

(委員) 再編を検討する場合に、大きいから減らすという話ではないのか。

→そういう意味ではない。

(委員) 将来人口の全体推計が第 4 次総合計画の人口推計に準ずると書いてあるが、これは何か。

→海老名市は第 4 次総合計画の期間中であり、計画期間は平成 20 年度から 29 年度の 10 年間となっている。総合計画では、計画を策定するにあたっての前提となる人口推計を行っており、この人口推計は第 4 次総合計画を策定した平成 18 年当時に推計したものである。しかし、その後 7,8 年経った中で土地利用もだいぶ変わってきており、平成 18 年には加味できなかった状況が出てきている。そこで、白書では、第 4 次総合計画での人口推計をもとに現在の状況を踏まえて数値を加減し人口推計を再計算している。

(委員) 海老名市は西口開発などで少子化がストップしそうであるといわれている。人口推計を間違えると足元すくわれてしまう。海老名市はもっと人口は増えるのではないのか。

→総合計画の人口推計の時点で、駅前の土地利用による人口増加は見込んでいる。また、さらに直近の状況も踏まえているのが、この白書の人口推計である。

(委員) 耐用年数を一律に 60 年としているが、鉄筋コンクリートでやっていたら 60 年だが、実際にそれだけ稼働できるかは疑問である。60 年前に建てたものは、配管施

設なども古く実際には更新できないものもあると思う。また、耐震基準が満たされていないものもあると思うのだが。

→市の保有する公共施設については、耐震性に危険のある建物はないと考えている。耐用年数については、たしかにすべてが 60 年耐えるかはわからない。施設の老朽化自体はものによって異なると考えており、場合によっては、この白書の想定よりも、更新のピークが前倒しになるのではないかという危機意識はある。

(委員) この白書の説明は、本日で終わりか。あとは自分で勉強してくるしかないのか。

→この白書を構成する個別の施設の状況などについてはまだ説明していない状況であると考えている。したがって、議論に入る前に本日の説明で終わりとは考えていない。市の財政状況や個別の施設の状況についても、改めて説明する。

(委員) 2-1 ページの海老名市の現状のところだが、市の建物面積状況は初めて見た。これを見ると県内の平均よりは余っているが、特段余っているわけでもない。財政状況が厳しいなどの話が多かったが、市として、公共施設の投資を増やし、面積を増やしてサービスを向上させるという方向は考えていないのか。

→海老名市の人口は現在増えているが、今後は徐々に減少し、高齢化についても急激ではないものの進行していくと考えている。このような状況の中で、市としては、社会情勢等も踏まえて、施設整備について検討していきたいと考えている。

(委員) 人口も地区別でかなり異なるため、一律には考えられないのではないか。地区ごとに検討する必要があると考えている。

(委員) 都市機能としての状況と人口の状況の関係をしっかり考えてもらいたい。また、施策が現在どのような状況にあるのかについても、その都度説明してもらいたい。

→委員のみなさまからのご意見も踏まえ、第2回策定委員会もすすめてまいりたい。

5 その他

次回の策定委員会の開催案内については日程調整中のため、後日連絡する。

以 上